

群 教 ゼ	G08 - 05
	平 16.222集

「たねまき」からはじめる フラワーデザイン！



主 題 農の心をもって草花を活用できる
「フラワーデザイン」の実践
- 栽培・活用・地域との交流を通して -

特別研修員 飯島 直子 (群馬県立藤岡北高等学校)

研究の概要 生物生産科のフラワーデザインの学習において、草花への愛着や農業への理解のある生徒を育てるために、栽培から活用、交流までの学習を通じた実践を行った。生徒は、自ら草花を栽培することにより、栽培の大切さや意義を理解することができた。活用や交流では、栽培した草花への思いが芽生え、花材を大切に扱う態度がはぐくまれた。本研究を通して、農の心をもって草花を活用できるフラワーデザインの実践を行うことができた。

キーワード 【フラワーデザイン 農業教育 農業高校 栽培活動 体系的学習】

I はじめに

1 フローラルアートコースの概要

本校生物生産科、フローラルアートコースの目標は、草花園芸を基礎に花と緑のアレンジメントや室内装飾、生活環境のデザインに関する分野について学習するとともに、園芸を通して美しく豊かな生活環境や社会の創造に主体的に取り組む能力を育てることである。「フラワーデザイン」は、学校設定科目であり、その目標は、草花の栽培と活用に関する知識と技術を習得させ、農業の意義や役割を理解させるとともに、農産物である草花に付加価値をつけて、生活の質の向上を図る能力と態度を育てることである。

2 フラワーデザイン関係の専門科目の概要

本コースにおけるフラワーデザイン関係の主な専門科目を表1に示した。

表1 主な専門科目(単位数)

科 目	2年	3年
草花	2	2
フラワーデザイン	4	4
総合実習	2	4
課題研究		2

なお、科目「フラワーデザイン」の4単位のうち2単位が非常勤講師による技術面の学

習、残り2単位を栽培学習に当てている。

3 フラワーデザイン学習の課題

生徒たちのフラワーデザインへの取組を見ていると、芸術性を高めることに重点をおいている生徒が多く、農産物である草花や農業への興味・関心が低い傾向にある。その原因として、次の2点が考えられる。

自分で栽培した草花ではなく仕入れた花材を利用しているため、花材への愛着が薄く、栽培と活用が結びついた学習ではない。栽培について学習する「総合実習」ではたねまきから収穫までの一貫した草花栽培を経験できないため、栽培の意義や大変さ、面白さなどを十分に理解できていない。

したがって、花材として取り扱う草花への愛着や農業への理解が十分でなく、芸術性のみを高める学習になってしまっていることが、課題としてあげられる。

II 研究のねらい

栽培から活用までの体系的な学習活動として、栽培した草花をフラワーデザインの花材として活用したり、草花の活用が社会に果たしている役割を理解する学習の機会を設けることが、草花や農業に対して「思い」のある生徒を育成するのに有効であることを授業実

践を通して明らかにする。

Ⅲ 研究の内容と方法

1 研究の基本的な考え

農業高校で学ぶ「フラワーデザイン」は農の心をもって栽培から活用までの学習に取り組むことに意義があると考えます。

そのためには、栽培から活用までの流れを生徒一人ひとりに責任をもたせ経験させることにより、草花栽培の大変さや面白さ、農業の意義を身をもって感じさせる必要があると考えた。

そこで、「栽培学習」、「栽培した草花の活用」、「作品発表会」、「地域交流」の4つの手だてを柱に、本研究の実践を試みた。

2 栽培学習の実践

栽培する草花を生徒に選ばせ、たねまきから収穫まで個々に責任をもって管理させた。

栽培に対する興味・関心を高め、栽培の知識や技術の定着を図るとともに、栽培学習に主体的に取り組める態度を養えるように、『振り返りワークシート』(図1)を活用した。

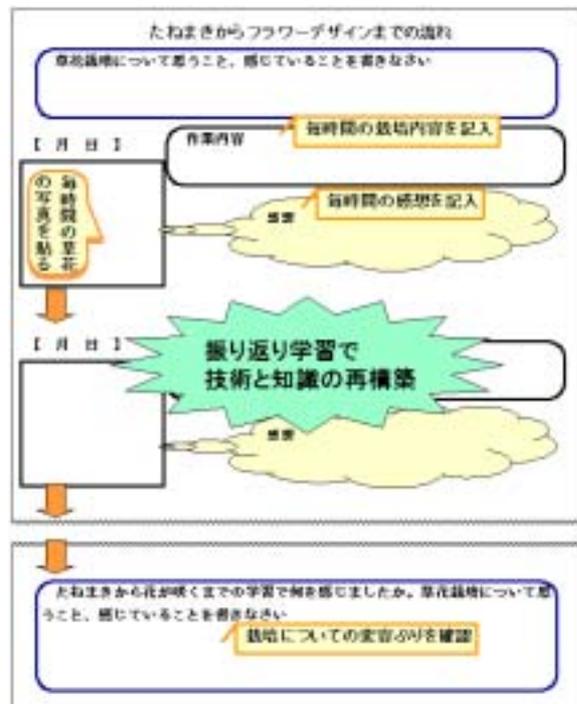


図1 振り返りワークシート

3 自ら栽培した草花を活用した作品づくり 「栽培した草花をいかに活用できるか」

「どのように作品に生かし生活に取り入れていくか」について考える力を養うために、『作品作りワークシート』(図2)を活用した。

作品製作では、必ず自分で栽培している草花を使用することを条件とし、花材の使い方、デザインの仕方等は個々に考えさせた。

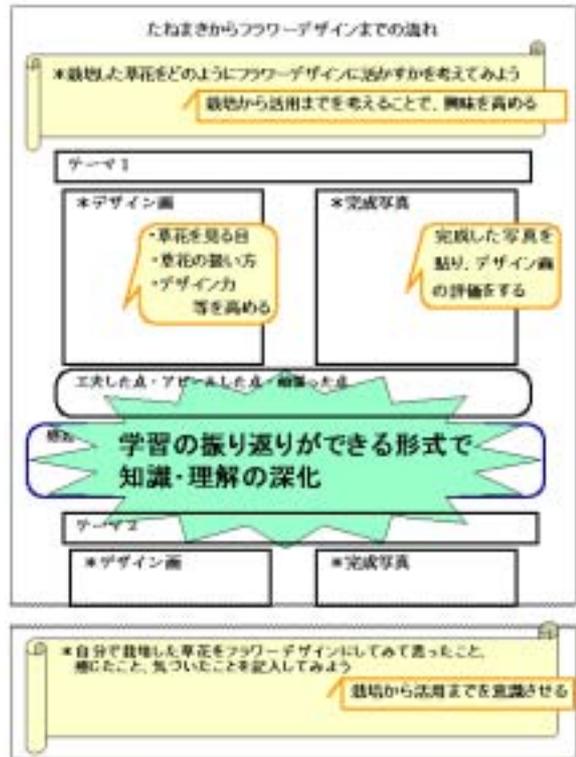


図2 作品作りワークシート

(1) 夏のタペストリー

夏の雰囲気を感じられるよう、花材とラッピングシートの色味を考えた作品(図3)。(花材:ケイトウ、帝王貝細工、ムギ、ブルーサルビア)



図3 夏のタペストリー

(2) 秋のタペストリー

飾る場所、秋をテーマとして、木材で枠を作ることからデザインを行った作品(図4)。

(花材：帝王貝細工、千日紅、ブルーサルビア、パンジー)



図4 秋のタペストリー

(3) クリスマスのデザイン

クリスマスの雰囲気を感じさせる素材を活用した作品(図5)。(花材：帝王貝細工)



図5 クリスマスのデザイン

3 作品発表会の実施

完成した作品の展示会を実施し、互いに自分の作品について発表し、意見交換を行った。

その際に、自己評価、他者評価を行った。自己評価では、栽培した草花を作品に思うように活用できたかを振り返らせるとともに、栽培した草花を活用して作品ができたという達成感も味わせた。一方、他者評価は、他の

生徒の草花の扱い方を学ぶとともに他者の評価を認知し、今後の作品作りに生かすことを目的に行った。

4 地域との交流の実施

草花の活用が社会に果たしている役割を理解させるために地域との交流を行った。

(1) 1日体験学習

(対象：入学を希望している中学生)

夏のタペストリー展示を中心として、作品の作り方の説明はせず、自由に見ていただき、本コースの学習内容の理解を図る場とした。

(2) シニアアグリスクール

(対象：園芸に興味のあるシニア)

秋のタペストリーの展示を行ったが、今までの発表を踏まえ、自主的に作品を作るまでの経緯や、草花の栽培や活用についてシニアの方たちに説明する場とした。

(3) 開放講座

(対象：園芸に興味のある地域の方々)

自分たちで作ったクリスマスの作品を展示し、その展示作品と同様のフラワーデザインの作り方を教える場とした。(図6)



図6 開放講座の様子

IV 授業実践

- | | |
|---------|---|
| 1 実践科目 | 「フラワーデザイン」 |
| 2 授業実践校 | 群馬県立藤岡北高等学校 生物生産科フローラルアートコース 2年18名 |
| 3 指導時間 | 平成16年4月～12月に実践 42時間 |
| 4 ねらい | <ul style="list-style-type: none">・学習内容への興味・関心を高め、体験学習を通して、自ら草花を栽培することのできる知識と技術を習得させる。・生産者の心をもって草花を活用することができるなど、農業の意義や役割を理解させる。・暮らしの中に草花を取り入れることにより生活の質の向上を図ることのできる能力と態度を育てる。 |

5 指導経過

時数	学習内容	指導目標	学習活動・生徒の反応
2 (5月)	草花選び	<p>フラワーデザインに適した草花を選ぼう!</p> <p>アレンジに使用することを考えさせ、適切な草花を選ぶことができるようにさせる。</p>	<p>アレンジに使用することを考え、草花を選ぶ。</p>  <p>花の種って小さいね。</p>
	は種	<p>たねまきをしよう!</p> <p>は種に関する知識と技術を身に付けさせる。</p>	
2	調べ学習	<p>自分の草花について調べよう!</p> <p>自分の育てる草花の栽培管理、特性等を調べ、今後の栽培方法についてまとめさせる。</p>	<p>自分の育てる草花の栽培管理、特性等についてインターネットを活用し今後の栽培方法について調べる。</p> <p>色々なことが見えてきたよ。</p>
1	観察	<p>発芽の様子を調べよう!</p> <p>発芽の観察、生育調査を正確に行わせ、今後どのような管理が必要になるかを考えさせる。</p>	<p>発芽率を調べ、生育調査の目的と方法を学習し、実際に測定・記録を行う。今後必要となる栽培管理を考える。</p> <p>やったー!無事に発芽したよ。</p>
2	鉢上げ	<p>鉢上げをしよう!</p> <p>鉢上げの意義を理解させ、鉢上げに関する知識と技術を身に付けさせる。</p>	<p>鉢上げの目的と方法を学習し、実際に鉢上げを行う。</p> <p>無事に育つか心配だね。作業は丁寧に、丁寧に。</p> 
2 (6月)	追肥・拵座	<p>追肥をしよう!</p> <p>追肥の意義について理解させ、追肥の知識や技術を身に付けさせる。</p>	<p>追肥・拵座の目的と方法を学習し、実際に行う。</p> <p>鉢上げの次が置肥なんだ。ずいぶん大きくなったね。拵座って何のためにするの?</p> 
3	観察	<p>生育から栽培管理を考えよう!</p>	<p>成長の様子、葉の付きかた等を観察し、スケッチする。今後の生育や栽培管理を考える。</p>

	<p>観察 観察</p>	<p>各栄養器官・生殖器官の観察をさせ、観察をもとに生育の様子を理解させ、今後の成長と管理作業を考えさせる。</p>	<p>すごい成長してる。びっくり~。早く花が咲かないかな。</p> 
<p>2 (7 月)</p>	<p>振り返り 学習</p>	<p>栽培の流れを振り返ろう!</p> <p>今までの栽培体験をもとに栽培に必要な知識や技術を振り返り、再構築させる。農業の意義や役割について考えさせる。</p>	<p>草花の栽培をたねまきから振り返り、ワークシートにまとめる。栽培体験をもとに農業の意義や役割を考える。</p> <p>花によって管理が違ふんだね。</p> 
<p>2</p>	<p>収穫・ドライ</p>	<p>収穫しドライフラワーにしよう!</p> <p>草花の生育の様子を考察し、栽培に適切な収穫時期を理解させる。ドライフラワーの作り方について理解させ、処理方法に関する知識や技術を身に付けさせる。</p>	<p>生育の様子から収穫適期を理解する。育てた草花を収穫しドライフラワーにする。</p> <p>たくさん収穫できたね。作品に使えるかな?</p> 
<p>2</p>	<p>作品 タペストリー</p>	<p>タペストリーを作ってみよう!</p> <p>ドライフラワーの扱い方を理解させ、ドライフラワーアレンジについての知識と技術を深める。</p>	<p>栽培収穫した花を作品に利用し、作品を作る。</p> <p>どんな作品に仕上げようかな?</p> 
<p>2</p>		<p>作品を紹介しよう!</p>	<p>今までの学習を生かして、タペストリーの説明を中学生などに行う。</p>

<p>(8 月)</p>	<p>1 日 体 験 学 習</p>	<p>栽培した草花とタペストリーについての知識や技術を振り返えさせ、それらを説明することのできる実践的な態度を身に付けさせる。</p>	<p>上手ですね。</p> 
<p>2 (9 月)</p>	<p>ドライフラワーについて知ろう! ドライ フラワーに ついて</p>	<p>ドライフラワーの扱い方、処理方法についての知識を身に付けさせる。</p>	<p>ドライフラワーの作り方、扱い方、利用方法、飾る場所等について学習する。 ドライフラワーは長持ちするからいいよね。</p>
<p>2</p>	<p>草花の知識を深めよう! 栽 培 草 花 発 表 会</p>	<p>栽培した草花についての観察内容、栽培方法、農業の役割等をまとめさせ、その内容を発表することのできる態度を身に付けさせる。</p>	<p>栽培した草花や農業の役割についての発表会を行い、情報を共有する。</p> <p>忘れな草っていうのはそういう意味が込められているんだ~。</p> 
<p>2</p>	<p>デザイン画を考えよう! デ ザ イ ン 画 を 考 え る</p>	<p>栽培した草花を生かしたデザイン画を考えさせ、適切に表現できる技術を身に付けさせる。</p>	<p>ドライフラワーにした草花をどのように作品に生かしていくかを考え、デザイン画を描く。 秋らしくどうやって花材を生かそうか~。</p>
<p>2</p>	<p>秋のタペストリー作りに挑戦!! 作 品 秋 の タ ペ ス ト リ ー</p>	<p>デザイン画をもとに、草花の特徴を生かしたアレンジメントができる技術を身に付けさせる。</p>	<p>デザイン画に基づき、栽培収穫した花の色、形を生かした作品作りを行う。 同じ花材なのに前回とは全然違った作品に仕上がったね~。すごいね~。</p>
<p>2</p>	<p>友達の花材の使い方を知ろう! 発 表 会</p>	<p>作品の花の使い方、色使い等について理解を深めさせる。作品について考察させ、正確に作品の特徴を表現できる態度を身に付けさせる。</p>	<p>完成した作品について発表し、他の生徒と自分の作品を比較しながら、他の生徒の色使い、花の使用方法について知る。</p> <p>同じ花材を使ってるのに全然違った作品になるんだね。</p> 

2 (11月)	デザイン画を考える	前回の作品の反省を生かしたデザインを考えさせ表現することのできる技術を身に付けさせる。	ドライフラワーにした草花をどのように作品に生かしていくかを考え、デザイン画を描く。 今度はクリスマスのデザインか～。
2 (12月)	作品クリスマス	前回の作品の反省を生かしたアレンジを行わせる。	デザイン画に基づき、栽培収穫した花の色、形を生かした作品作りを行う。 帝王会細工って使いようで色々にアレンジできるね。
2	発表会	前回の作品と比べさせ、反省点をどのようにアレンジに生かしたかを考えさせ、発表することのできる態度を身に付けさせる。	完成した作品について発表し、他の生徒と自分の作品を比較しながら、他の生徒の色使い、花の使用方法について知る。
2	振り返り学習	今までの学習を振り返ろう！ は種から作品作りまでの流れを体系的に理解させ学習した知識・技術を再構築させる。栽培したものをアレンジに活用する意義について考えさせる。	栽培から作品作りまでの流れをワークシートに沿って振り返り、自分で栽培した花材を活用する意義について考える。 栽培から作品に活用するまで長かったね。だけど、栽培した草花を作品に使えたってすごいことだよな！！
2	地域との交流	学習してきたことを地域の人達に広めよう！！ 活動内容を考察させ、分かりやすく説明することのできる能力を身に付けさせる。 ドライフラワーのアレンジを教えることのできる実践的な態度を身に付けさせる。	地域の人たちに自分たちの作品を見ていただき、生徒が先生役になり、草花の栽培方法からドライ、作品作りまでの流れを説明する。 これ、学校で栽培したお花なの？ 
2	まとめ	今までの活動をまとめてみよう 栽培から活用までの学習を振り返らせ、新しい課題について考えさせるとともに農業の意義や役割について理解させる。	栽培から作品作り、地域との交流についてまとめ、学習内容を反省し、新たな課題について考え、農業の意義や役割について説明することができる。 

V 結果及び考察

1 栽培学習の実践

(1) 結果

自分たちでたねまきから栽培したものを活用するという目的をもたせて取り組ませたことにより、草花栽培に対する興味・関心・態度が意欲的になり、毎週の観察時の草花の様子に一喜一憂している様子が見られた。

同時に他の草花にも目を向けられるようになり、自分の草花の成長と比較して観察している姿も見られた。(図7)

さらに、『振り返りワークシート』の効果についてのアンケート結果を図8に示した。

草花観察シート・振り返りワークシートの感想から今回初めて自分でたねまきから収穫までを体験して、草花の管理は大変なことだと思った。また、自分でサルビアを育てることによって、草花を大切にするという気持ちが出てきたと思う。栽培管理は大変だったけれど、その分収穫時のうれしさも倍で、とても良い経験だったと思う。

たくさんたねをまいても思うように発芽してくれなくて、最初は不安でした。なんとか発芽しても、なかなか成長してくれなくて、ハラハラしました。

かすみ草やサルビアが咲いたときは、本当に嬉しかったです。草花の栽培は本当に手間暇かけているんだなぁと実感しました。ドライにしたので大事に扱いたい。

最初は周りの花に比べて自分がまいた花は大きくなるのが遅くて少し不安だったけれど、今では観察に行くたびに成長しているので嬉しい。

図7 生徒の栽培学習についての感想

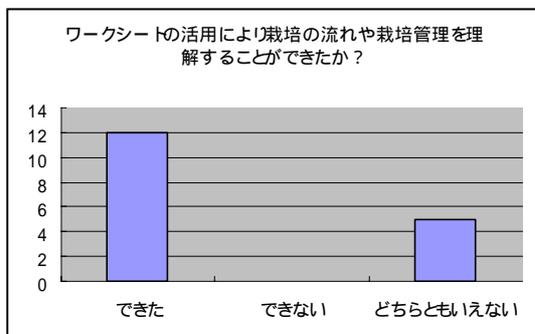


図8 振り返りワークシートの効果

図8からわかるようにワークシートを活用することで栽培についての理解を深めたことが確認できる。

次に、栽培前後における生徒の興味・関心の変移を図9に示した。

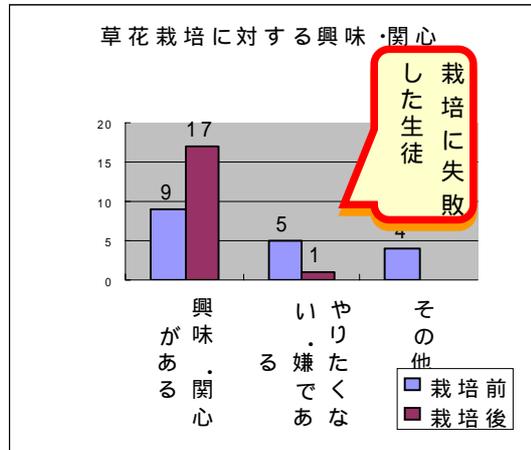


図9 栽培前後における生徒の興味・関心の変移

ほとんどの生徒が栽培に興味・関心を示していることが図9から読み取れる。しかし、栽培に失敗した生徒は、その後の管理が投げやりになってしまうような様子も伺え、アンケート結果からも栽培に対する興味・関心を失ってしまっていることや、最後まで管理できた生徒とは達成感が違うように感じられた。

(2) 考察

以上のことより、責任をもたせて栽培から収穫までの体系的な栽培学習を導入することは、生徒の栽培学習を主体的に行おうとする資質や姿勢をはぐくむことに有効であると考えられる。また、「総合実習」において消極的な生徒も、毎週の草花の成長、栽培管理を楽しみに積極的に取り組むようになったことも、体系的な学習の波及効果と考えられる。

いずれにしろ、本研究で実践した体系的な栽培学習の導入や『振り返りワークシート』の活用は、草花の栽培管理に必要な知識や技術を身に付け、栽培管理の流れを理解させる上で有効であったと考えている。また、それらのことを通して、栽培の面白さや大変さを肌で感じ取らせ、生産者への理解を深めるこ

うえでも効果があったと考えている。

一方、課題としては、作品に活用できるような草花が育たなかったり、途中で苗が駄目

になってしまったりした場合の手だてである。今回は、計画通りに育たなかった場合には、再度たねまきをしたり、準備しておいた苗を利用したが、生徒のやる気を失わないような支援の工夫が必要であると考えられる。

2 自ら栽培した草花を利用した作品づくり

(1) 結果

自分たちで栽培した草花を作品に生かしていく作品づくりでは、不安を抱きながらも、強い興味・関心を示し取り組んでいた。どの作品とも、デザインづくりから作品づくりまでに大変時間がかかったが、栽培した草花をデザインに生かすという作品づくりに対する「思い」は強く、意欲的で授業時間が終わっても取り組んでいる姿が見られた。この3回の取組からは各生徒の作品に対する思いが強くなり、達成感を味わえた。(図10)

作品作りを行った感想

自分で栽培した草花を使ってアレンジすると気持ちいいし、育てた達成感を感じた。

育てた花をふんだんに使い、良くできました。

栽培した草花で、こんな作品を作ることができることにびっくりした。他の人の作品はもっともっと豪華ですごかった。草花は有効的に使えば良い作品ができるんだと思った。

あんまり思い通りの作品ができなかった。次回は絶対成功させたい。

自分で栽培した花でデザインしたかった。

図10 生徒の作品に対する感想

さらに、この栽培から活用までを通して、様々なところで生徒の変化が見られてきた。

以前までは作品に使用しなかった花材は捨ててしまっている生徒がほとんどであったが、栽培から活用までの授業回数を重ねるにつれ、余った花材を花束にしたり、ミニアレンジとして作品に活用したりする生徒が増えてきた。(図11)(図12)

この傾向は「フラワーデザイン」の授業のみならず、「総合実習」の時間においても、「摘花した花がもったいないので押し花にしたい。」「ドライフラワーにすることはできないか。」という申し出が多く見られるようになった。



余った花材でミニ花束を作成したよ。

図11 余った花材で作成したミニ花束

栽培からアレンジまでを一貫して行ってきたの感想
アレンジに使うためにたねまきから行ったことは大変でしたが楽しくもありました。

アレンジに使えるように育てるのは難しいと思った。

自分で栽培したお花であんなにも可愛くアレンジできるなんてすごいと思った。

この経験を授業にも生かしたいと思ったし、生活面でも生かしたいと思った。

栽培の大変さを知った。もっとアレンジの時の花材を大切に扱おうと思った。この考えをアレンジの授業に生かしたいと思う。

面白かったけど、期間がかかりすぎ。たねから育てるのは大変だと思った。

またやりたい。もっと花を栽培して色々なアレンジにしたい。

草花の大切さがよくわかりました。栽培している時、丁寧に育てなければならぬと思いました。

栽培からアレンジまでというのはとてもすごいことだと思った。

図12 生徒の栽培から活用までの感想

(2) 考察

この生徒の変容は栽培という経験を通して、草花への愛着が高まり、草花に対する「思い」がはぐくまれてきた成果であると考えている。また、このことは、農業の特質である、生きているものを育てるという栽培の大変さや楽しさ、難しさなど様々なことを植物の成長や栽培管理を通して、個々に生徒が感じ、理解した成果であるとも考えている。

そして、今まで当たり前のように与えられていた花材がどのように育てられ、流通しているのかを身をもって体験することにより、

草花栽培の意義、花に対する思いが生徒の内面で変わってきた証であると考察している。

課題としては、栽培同様、作品に活用できるようなドライフラワーに仕上がらなかった場合の手だてである。作品に栽培した草花をうまく活用できなかった生徒は、デザイン重視で取り組んでしまっている様子が伺えた。

今後は、自然乾燥と温風乾燥機を併用して対応していきたい。

3 作品発表会の実施

(1) 結果

今回、作品発表会を実施することにより、草花の活用方法について考えさせる機会を設けることができた。同時に、他の作品の花材の使い方を見ることにより互いに触発され、作品づくりの一助となった。(図13)

次に、図14に発表会実施に関する生徒の意識調査の結果を示した。

作品発表会を行って感じたこと
全く自分とは違う花材の使い方、デザイン性などをみてすごいと思った。
次のアレンジの時の参考になった。
同じ花材を扱っても人と全く違うものができるから面白いと思う
それぞれが工夫したところが見られた。
友達の作品を見て、良いところを勉強していける。
自分だと思いつかないような花材の使い方がたくさんあり、見ていて勉強になりました。

図13 生徒の作品発表会に対する感想

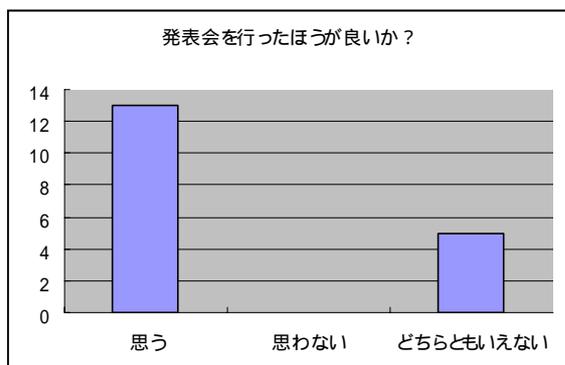


図14 生徒の発表会についての意識

図14を見ると多くの生徒が発表会を実施する有用性を認めていることがわかる。

(2) 考察

生徒の感想や意識調査の結果からもわかるように、学習の成果を披露する場面を設け、自己評価や他者評価を行うことは、生徒の判断力を高めるうえで大切であると考えられる。また、発表会は、栽培の魅力や難しさ、農産物に付加価値を付けることの意義などを理解する良き機会になったと思われる。

したがって、発表会の実施は、より一層、生徒に栽培や農業に対する思いをはぐくむ上で効果的であったと考えている。

ちなみに、図14の「どちらともいえない」の理由としては、「自分の作品は見せたくないけど、みんなのは見たい」「自分の作品を作る力の無さ」というように、他の生徒の作品は見たいが、自分の作品を見せるのは嫌であるといった回答であった。今後は、自分の作品に対して自信をもたせるとともに、自分にしかない良さを認め、気づかせていきたいと考えている。

4 地域との交流の実施

(1) 結果

交流会に望むに当たり、『振り返りワークシート』を用いて栽培から活用までの学習内容を整理している生徒の姿が見られた。交流会では、技術指導の他にも、今までならば捨てていた余った花材の活用方法の紹介、地域の方々の栽培に対する質問に熱心に答えている様子が見られた。

さらに、地域の人たちが生活にどのように草花を取り入れているかを交流を通して知ることにより、年代を超えて草花活用についての情報を交換したりすることができ、学校では学べない暮らしの中における草花や農業の生きた役割を認識することができた。

なお、図15に交流会に参加した地域の方々の感想を示した。

(2) 考察

自分たちのもっている知識、技術を教えるために『振り返りワークシート』を活用し、自分たちの学んだことを振り返ることによって、栽培や活用に対する知識、技術の深化が図られたと考える。一方、交流会によって、各家庭での草花の活用方法や草花の心を癒す効果、草花の手入れについて情報交換を行う

ことにより、農業のもつ社会的な役割について理解が深まったと考えられる。

また、交流会の実施は、教わるという立場から教えるという立場にたち、自信と達成感が得られたと考えられる。

以上のことより、地域の方々との交流は有効であったと考えている。

ドライフラワー教室に参加した方の感想より
初めての体験でしたが、素敵な作品ができてとても嬉しかったです。家にあるアメリカンセージを使って挑戦してみようと思います。
高校生と普段接する機会がないので楽しかったです。とてもよく教えてくれてどうもありがとうございます。
アレンジメントでの生徒の参加で学校の様子が少しですがわかり良かったです。
教えていただいた在校生の優しい態度に今時の「若い者」という思いを改めさせられました。

図15 交流に参加した方々の感想

「作品発表会の実施」では、他者評価により、花の美しさや活用の仕方ですべて違うデザイン表現ができることや、農産物に付加価値をつけることの意義を理解した。

「地域交流」では、農業の役割を肌で感じるとともに、自分に対する自信を高め、栽培から活用までの知識の深化を図ることができた。

VI おわりに

本研究を通して、農の心をもって草花を活用できるフラワーデザインの実践を行うことができた。実践の成果をまとめると以下のようになる。

「栽培学習の実践」により、草花栽培に対する興味・関心が喚起され、栽培及び農業の意義や大変さ、面白さを体験を通して知ることができた。

「自ら栽培した草花を活用した作品づくり」では、栽培した草花への思いが芽生え、花材を大切に扱う態度がはぐくまれた。

「フラワーデザイン」では芸術性・技術性を高めることも大切であるが、農業高校で学んでいるのであれば栽培に関する知識、技術を身に付け、農の心を大切にしながら草花の活用を考えることが大変重要である。

今後は、この身に付けた力を生徒が家庭や地域で実践し、多くの人たちに農の心を伝えていくことを期待している。

VII 参考文献

高等学校学習指導要領解説 農業編 文部省

